

本庄川ダムの近くの見どころ

大鳴門橋と渦潮



淡路島の門崎と大毛島の孫崎を結ぶ吊橋で、主塔の間が876m、全長1,629m、主塔の高さは、海面から144mで、橋の下は1万トン級の船舶でも通れるように41m以上の空間を確保しています。鳴門海峡は、瀬戸内海の入口にあたり、波潮流、風など、また南風による太平洋のうねりと自然力が大きく、春秋の大潮時には潮の速さは11ノットにもおよびます。



灘黒岩水仙郷

諭鶴羽山地が海岸へドッとなだれ落ちる45度の急斜面約7ヘクタールに500万本以上も野生の水仙が深緑のジュータンに可憐な白い花をぽっかり浮かばせて群生しています。

淡路人形



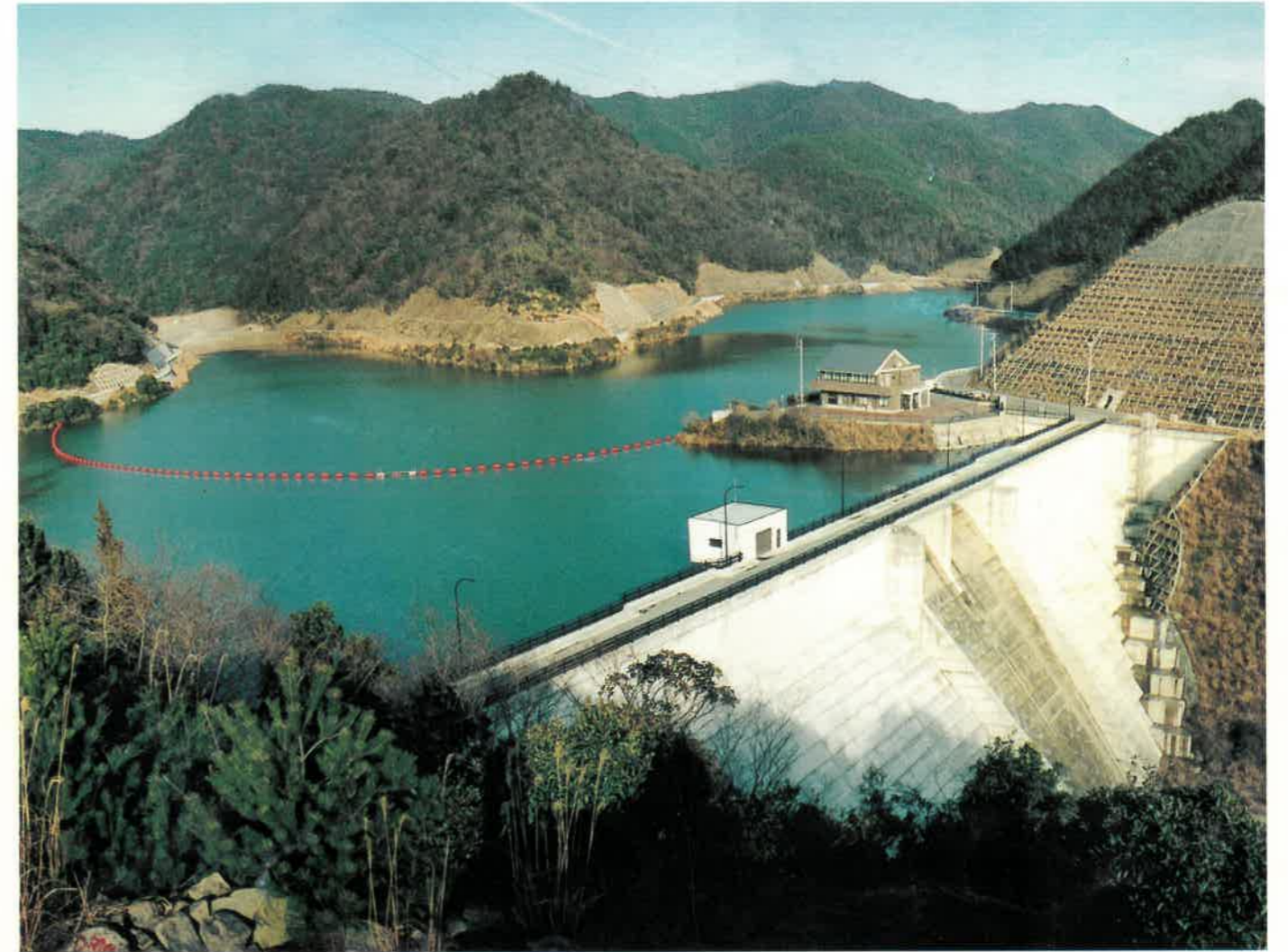
国の重要無形民族文化財の指定を受けた伝統芸能、淡路人形浄瑠璃の常設館。文楽に比べて人形が大きく、素朴で力強く、喜怒哀楽の表情も大きい。




阿万海岸

鳴門海峡に臨み、透きとおるマリンドブルーの海岸が約2kmにわたって広がります。夏は海水浴や近くの吹上浜でキャンプを楽しむグループで賑わいます。

本庄川ダム 竣工



平成10年9月9日
兵庫県
淡路広域水道企業団
南淡南部土地改良区



諭鶴羽山西方の阿万地域は、古くより水不足や災害が頻発してきました。このため、地域の人々の英知とたゆまぬ努力によって幾多の困難を克服してダムを建設することができました。

このダムが旱魃や災害を防止して人々が豊かに暮らせる礎となり、阿万地域がさらに発展することを願うものです。

地 域	南淡町阿万上町	下 町	佐野町
	塩屋町	中西町	吹上町
	西 町	東 町	丸田町

平成10年9月9日

兵 庫 県
淡路広域水道企業団
南淡南部土地改良区

事業の目的

本庄川ダムは淡路島南部の紀伊水道に面した三原郡南淡町阿万地内にあります。この地域は温暖な気候に恵まれた全国でも有効な農業地域であり、三毛作体系が確立された集約的な農業が営まれています。

淡路島は地形上河川流路が短く、山間地の降水は短時間に平野部の農地に集中するため、毎年のように洪水や湛水の被害を受けています。

一方で、普段の河川水量は乏しく、農業用水並びに飲料水は慢性的な不足状態となっています。

本庄川ダムの下流域も本庄川の洪水に幾度も見舞われるとともに、かんばつによる被害もたびたび受けてきました。

そこで、本庄川上流に洪水調節、かんがい用水並びに水道用水の供給を目的として、兵庫県と淡路広域水道企業団の協同事業による多目的ダムを建設し、農業経営の安定と生活用水の確保を図るものです。

事業の構成

防 災 ダ ム 事 業

アロケーション比率	55.1%
受 益 面 積	217.9ha
洪水調節 ダム地点	60m ³ /s → 10m ³ /s
計画地点(天神橋)	100m ³ /s → 60m ³ /s
受 益 戸 数	409戸
事業主体	兵 庫 県
負担区分	国 55.0% 県 45.0%

県 営 かん がい 排 水 事 業

アロケーション比率	25.1%
受 益 面 積	246.9ha
基 幹 作 物	水稲・玉ねぎ・レタス
かんがい期間	水田：6/21～9/20 畑：通 年
受 益 戸 数	419戸
事業主体	兵 庫 県
負担区分	国 50.0% 県 25.0% 地元 25.0%

水 道 用 水 供 給 事 業

アロケーション比率	19.8%
供 給 量	2,000m ³ /日
事業主体	淡路広域水道企業団

防災区域の湛水被害（H2.9.18 台風19号）



三毛作農業作付状況

ダム計画諸元

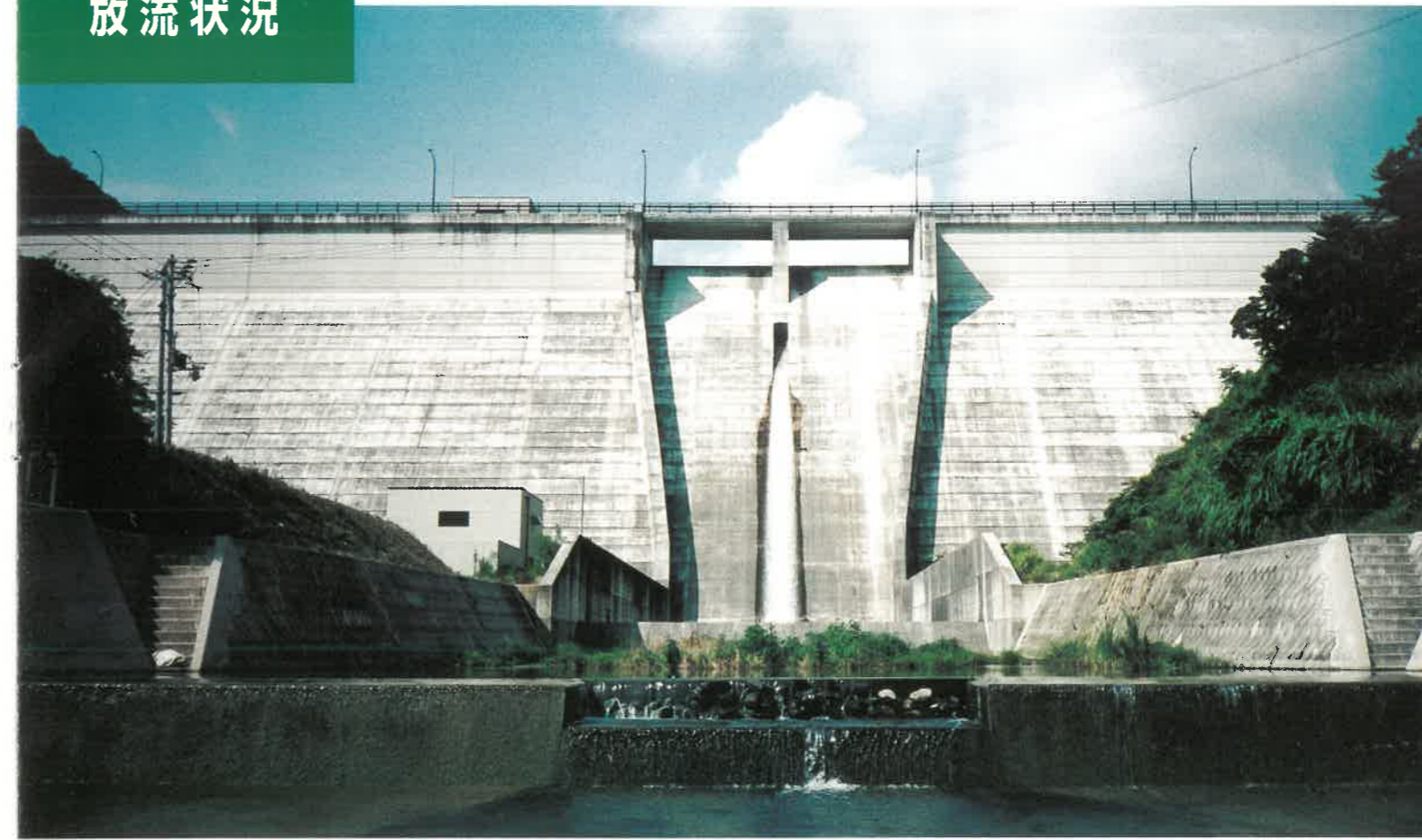
ダ	ム
河川名	二級河川 本庄川
位置	三原郡南淡町阿万上町
型式	重力式コンクリートダム
堤高	47.65m
堤頂長	184.00m
堤頂幅	5.00m
最大敷幅	42.07m
上流面法勾配	1:0.0
下流面法勾配	1:0.80
堤体積	105,300m ³
非越流部標高	EL 123.65m
越流部標高	EL 120.15m
基礎岩盤標高	EL 76.00m

貯水池	
集水面積	3.4km ²
湛水面積	0.12km ²
総貯水容量	1,720,000m ³
有効貯水容量	1,610,000m ³
洪水調節容量	900,000m ³
利水容量	710,000m ³
堆砂容量	110,000m ³
設計洪水位	EL 122.15m
サーチャージ水位	EL 120.15m
常時満水位	EL 111.65m
計画堆砂位	EL 100.55m
放流施設	
常用洪水吐	放流管 φ1,400mm×1門
非常用洪水吐	クレスト自由越流12.5m×2門
取水施設	
取水設備	シリンダーゲート φ600
放流設備	ジェットフローゲート φ450×1 φ100×3

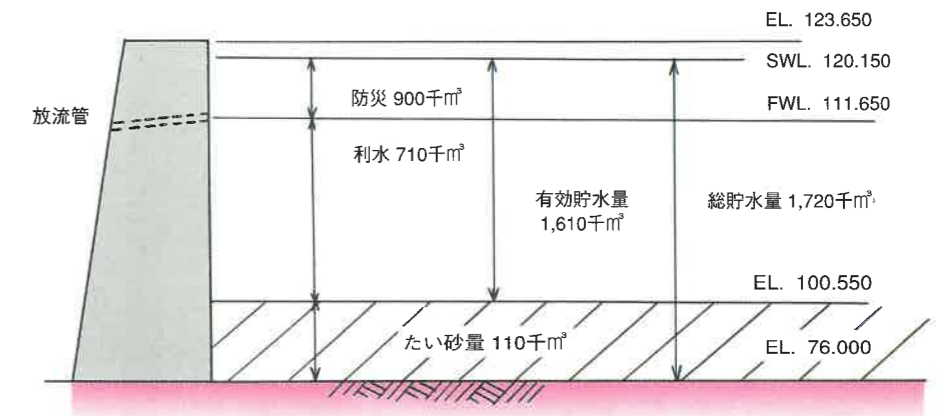
本庄川ダム平面図



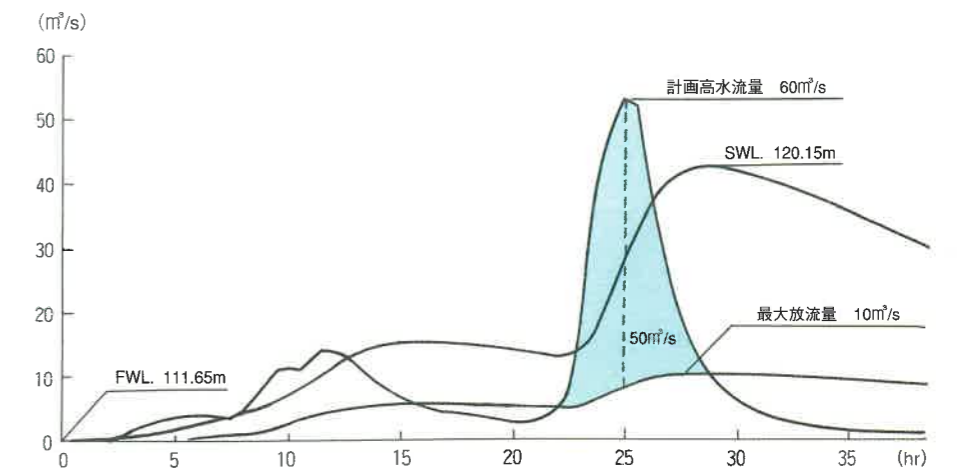
本庄川ダム 放流状況



貯水池容量配分図



洪水調節図 [ダム地点]



昭和 50～53年度	淡路地域整備推進委員会、島内水資源開発調査
53. 1. 18	奥河内（本庄川）ダム建設促進委員会結成
53. 4. 4	三原郡水資源対策委員会結成
53. 12. 1	三原郡ダム建設促進委員会結成
54.～57年度	調査、測量、ダム計画樹立
57. 2. 1	淡路広域水道企業団発足
59. 2. 10	淡路広域水道用水供給事業認可
60. 5. 16	防災ダム事業、県営かんがい排水事業採択
60. 9. 30	本庄川ダム建設準備委員会結成
60. 10. 14	防災ダム事業、県営かんがい排水事業確定
62. 8. 18	用地委員会発足
62. 9. 21	基本協定書締結（兵庫県一水道企業団）
62. 12. 3	ダム補償協定書締結
63. 3. 28	阿万財産区用地締結
63. 11. 30	工事用道路着手
平成 2. 3. 9	ダム建設工事契約（工期 平成2年3月12日～平成6年3月25日）
2. 5. 23	起工式
3. 6. 12	コンクリート打設開始
3. 10. 14	定礎式
4. 6. 10	コンクリート 6万㎡ 打設式
5. 4. 9	コンクリート打設終了
6. 3. 25	ダム建設工事完成
7. 11. 1	試験湛水開始
10. 7. 2	試験湛水終了
10. 8. 24	ダム完成検査
10. 9. 9	ダム竣工式

安全祈願祭



起工祝賀会



工事に伴う祠の移転

平成3年10月22日
ダム定礎式



定礎



コンクリート打設

ダム本体のコンクリート打設は、平成3年6月12日に打設を開始し、平成4年6月10日に6万 m^3 を打設、平成5年4月9日に打設を終了。

平成4年4月（コンクリート打設状況）



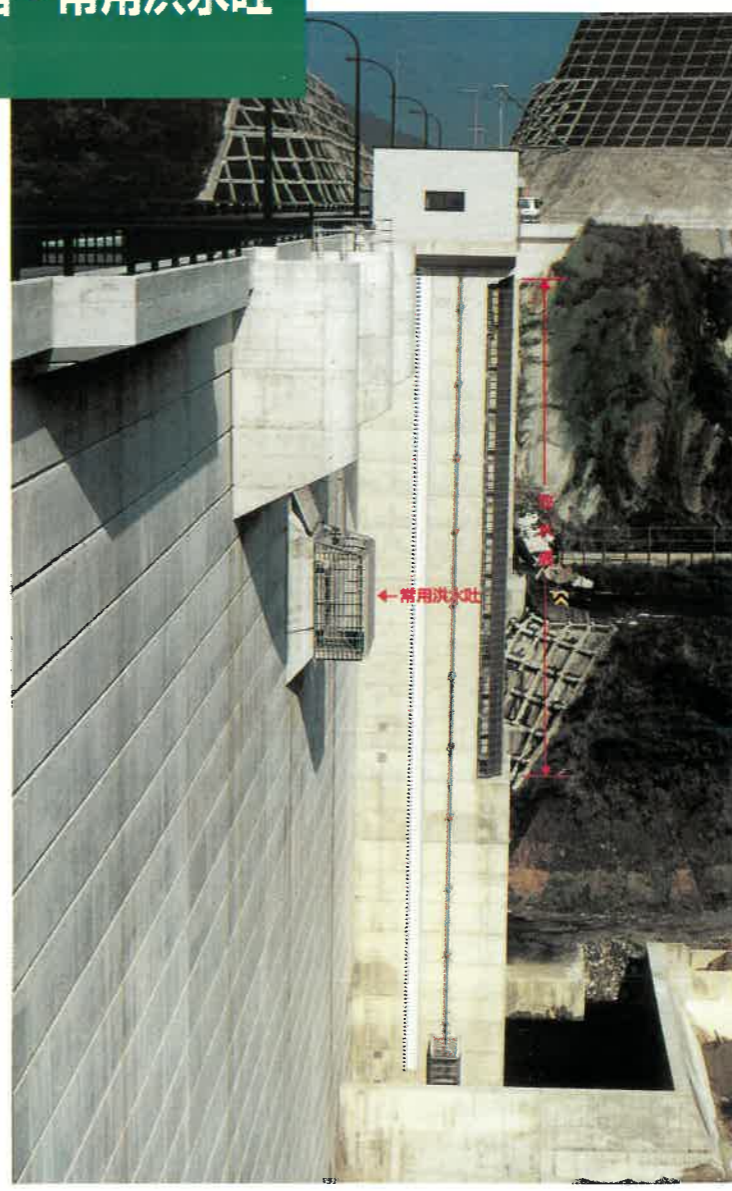
平成5年4月（コンクリート打設終了）



平成5年4月9日
コンクリート打設完了式



取水塔・常用洪水吐



取水塔内のシリンダーゲート



φ1400mm常用洪水吐放流管



常用洪水吐放流管（上流より）

試験湛水

ダムは供用開始に先立って試験湛水を行い、ダムの安定の確認を行います。平成7年11月1日に試験湛水を開始し、平成10年2月26日に最高水位（サーチャージ水位120.15m）に到達しました。そして、平成10年7月2日に常時満水位111.65mまで水位を降下させて試験湛水を終了しました。

平成10年2月26日 サーチャージ水位時のダム湖



クレストからの越流



ダム管理所



阿万小学校6年生の体験学習状況



ダム管理所内のダム管理設備